

ニキビの標準治療

皮膚科

春

は新生活の始まり、新しい出会いの季節です。積極的なコミュニケーションで、良好な関係を築き上げていきたいものです。そんな時、顔の皮膚にトラブルを抱えていては、誰でも消極的な気持ちになりがちです。心も不安定な思春期の子ども達ではなおさらです。ですから、ニキビは「青春のシンボル」ではなく、「生活の質を損なう重大な皮膚病」と考え、早めに適切な治療を受けてほしいと思っています。



ニキビは、毛穴が閉塞しやすい肌質の人が、思春期に性ホルモン分泌が増加して皮脂腺の働きが活発になり、毛穴に皮脂がたまった状態(コメド)から始まります。次に、コメドの中でアクネ菌が増殖して炎症が起き、赤く腫れたニキビや膿を持ったニキビ(炎症性ニキビ)に進行します。周囲に強い炎症が及ぶと皮膚組織は破壊され、最後には治りにくいニキビ跡を残すことがあります。

約2年半前に世界的標準治療薬のアダパレン(製品名:ディフェリン)が日本で保険適応になりました。全段階のニキビ治療と軽快後の維持療法で使用が強く推奨されています(日本皮膚科学会ガイドライン)。

アダパレンは、従来の抗菌剤治療で改善しなかったコメドを抑え、炎症性ニキビを防ぐ外用薬です。乾燥・不快感などの副作用がありますが、適切な指導で多くは継続可能です。コメドを含むニキビ総数が、3ヵ月で6割、半年で7割、1年で8割減少します。

ニキビケアのための高価な化粧品類を使用した後に皮膚科を受診される方がまだまだ多いように思います。ケミカルピーリング等の美容診療は保険適用外(費用はアダパレンの約20倍)であり、現在では標準治療が無効あるいは実施できない場合の選択肢の1つとされています。費用対効果も考えて、化粧品類や美容医療を始める前に、皮膚科で標準治療を受けてみてはどうでしょうか。

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
むとう みか

● 武藤 美香

多摩ニュータウンタイムズ掲載記事 2011.4



多摩ガーデンクリニック

皮膚科・小児科

東京都多摩市落合1-35
ライオンズ多摩センター3F
<http://www.tama-garden.com/>

予約・お問い合わせ

042-357-3671

※皮膚科と小児科では診療時間及び受付時間が異なります。詳しくは受付・電話にてご確認ください。

携帯サイト

